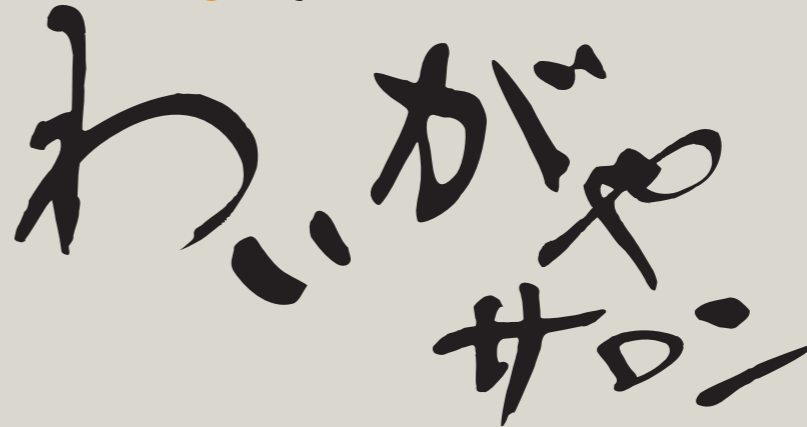


- 第1回／佐倉 一徳さん NHK長野放送企画総務部副部長 樋口 博さん 長野市産業振興部観光課長
- 第2回／久米 えみさん ながのクラッセ会長 樋口 敦子さん ながのまちづくりカフェメンバー
- 第3回／鷲沢 幸一さん アスレながの事務局長 室賀 豊さん 長野市アイスホッケー協合理事
- 第4回／清水 隆史さん フォトグラファーほか 常盤 昭二さん CMディレクター
- 第5回／虎羽里(トラバリ)ゼーラさん アーユルウェーダ・健康セラピスト
- 第6回／竜野 泰一さん 株式会社エーシーエ設計 取締役副社長〔一級建築士〕
- 第7回／木田 勇さん 信濃グランセローズ監督
- 第8回／荻原 健司さん 参議院議員・五輪金メダリスト
- 第9回／松島 憲一さん 信州大学大学院農学研究科 准教授
- 第10回／松岡 保正さん 国立長野工業高等専門学校 環境都市工学科教授
- 第11回／浜 このみさん クッキング・コーディネーター
- 第12回／角本 浩二さん バランスアドバイザー 長野県健康管理士协会会长
- 第13回／針谷 友久さん 東京中小企業投資育成株式会社 主任(長野県担当)
- 第14回／水野 守也さん 長野市総務部次長 兼庶務課長
- 第15回／バドゥ・ピエイラ監督、薩川了洋コーチ、貞富信宏キャプテン
- 第16回／町田 良夫さん 社団法人長野市農業公社 常務理事
- 第17回／中山 修さん 中山法律事務所 弁護士
- 第18回／塩澤 研一さん (財)いのちの森文化財団副理事長 (株)水輪ナチュラルファーム代表取締役
- 第19回／小出 陽子さん (同)ふきっ子のお八起 代表 / 信州おやきブランド化委員会 研究会リーダー
- 第20回／宮城 恵美子さん (有)宮城商店専務取締役 / 木の花屋
- 第21回／志村 雅由さん NPO法人 飯綱高原よっこらしょ 代表理事
- 第22回／薩川了洋さん AC長野パルセイロ新監督
- 第23回／石沢 一男さん (有)田舎工房 代表取締役
- 第24回／新谷 志保美さん バンクーバーオリンピック代表 (株)竹村製作所 勤務
- 第25回／越 和宏さん スケルトン競技3大会オリンピック日本代表 (株)システックス所属
- 第26回／鈴木 政一さん 長野パルセイロ・アスレチッククラブ強化本部長
- 第27回／千村 尚司さん 千村ブレイン代表・ソムリエ
- 第28回／川崎 史郎さん フリーライター・市民記者ネット代表
- 第29回／安藤 長一さん 篠ノ井消防署署長、緊急消防援助隊長長野県隊長(第二次派遣隊)
- 第30回／マブソン 青眼さん 俳人・比較文学者
- 第31回／井上 裕子さん 信濃毎日新聞社編集局地域活動部長・編集委員
- 第32回／田幸 淳男さん 信越放送取締役相談役
- 第33回／飯室 織絵さん 観光客向けゲストハウス「1166/バックパッカーズ」運営
- 第34回／相原 哲さん ながの町神輿連合会武蔵会 会頭
- 第35回／小林 亨さん 日本オリンピック委員会(JOC)勤務
- 第36回／薩川了洋さん AC長野パルセイロ監督
- 第37回／小宮山 義光さん 日本野鳥の会長野支部会員
- 第38回／塩澤 研一さん 農業生産法人水輪ナチュラルファーム代表取締役 / (財)いのちの森文化財団 副代表理事
- 第39回／俣田 達男さん NTT東日本 長野支店長
- 第40回／山田 隆さん しなの鉄道(株) 専務取締役
- 第41回／藤岡 牧夫さん イラストレーター・絵本作家
- 第42回／矢澤 秀成さん 園芸研究家/ながの花と緑そして人を育てる学校校長
- 第43回／近藤 京子さん カウンセラー/NPO法人「わくわく志事研究所」所長
- 第44回／栗田 貞多男さん 写真家
- 第45回／鴨志田 明弘さん 野村不動産アーバンネット株式会社 企業不動産部専任部長
- 第46回／天野 良彦さん 信州大学工学部物質工学科教授
- 第47回／美濃部 直彦さん AC長野パルセイロ監督
- 第48回／丸田 勉さん 脚本・演出家 森の家 林りん館館長
- 第49回／浅野 邦子さん 株式会社 第一 代表取締役会長
- 第50回／平沢 幸子さん 長野朝日放送 アナウンサー

- 第51回／本田 美登里さん AC長野パルセイロ・レディース監督
- 第52回／小田 與之彦さん 株式会社加賀屋 代表取締役社長
- 第53回／廣井 紀文さん 株式会社ディーテス 代表取締役社長
- 第54回／羽生田 豪太さん 株式会社羽生田鉄工所 代表取締役
- 第55回／中島 麻希さん 1級フードアナリスト
- 第56回／齋藤 安彦さん 宮司
- 第57回／屋敷 陽太郎さん NHKチーフプロデューサー
- 第58回／平山 優さん 歴史研究者
- 第59回／西村 知子さん 寺町商家運営アドバイザー
- 第60回／広瀬 毅さん 株式会社CREEKS 広瀬毅建築設計室代表
- 第61回／浅野 哲也さん AC長野パルセイロ監督
- 第62回／中島 恵理さん 長野県副知事
- 第63回／服部 秀人さん 信州・橋の日推進協議会専務理事/エコファーマー
- 第64回／平尾 勇さん 長野県観光機構エグゼクティブ・プロデューサー(前松本市商工観光部長)
- 第65回／野池 裕子さん ダイヤモンド・セルフ長野ファースト 代表 講師
- 第66回／愛甲 宏明さん 炭平コンピュータシステム株式会社 代表取締役社長
- 第67回／坂橋 克明さん フリーバーソナリティー
- 第68回／宮下 秀樹さん 株式会社守谷商会 執行役員、国立長野高専客員教授
- 第69回／金田一 真澄さん 公立大学法人 長野県立大学 学長
- 第70回／笹本 正治さん 長野県立歴史館 館長
- 第71回／山本 克也さん 長野市芸術館 総支配人
- 第72回／AO VIVO(アォ・ヴィーヴォ):竹内 浩一・中川 雅紀・山極おーじ・優子・長谷川 裕晃・中田 寿寛
- 第73回／山浦 直人さん 土木・環境しなの技術支援センター理事、長野県立歴史館客員学芸員
- 第74回／松本 克幸さん 協栄電気興業(株) 取締役副会長
- 第75回／大室 悦賀さん 長野県立大学グローバルマネジメント学部教授/ソーシャルイノベーション創出センター長
- 第76回／AO VIVO(アォ・ヴィーヴォ):竹内 浩一・中川 雅紀・山極おーじ・優子・長谷川 裕晃・中田 寿寛
- 第77回／水間 源さん 東御市役所 地域おこし協力隊
- 第78回／小澤 吉則さん 一般財団法人 長野経済研究所 理事・調査部長
- 第79回／AO VIVO(アォ・ヴィーヴォ):竹内 浩一・中川 雅紀・山極おーじ・優子・長谷川 裕晃・中田 寿寛
- 第80回／森田 舞さん ゆめサボママ@ながの 共同代表
- 第81回／新井 精一さん 千広建設株式会社代表取締役
- 第82回／竹内 伊吉さん 大成産業株式会社代表取締役社長



通信

Vol. 83
2021.12



NUPRI
Nagano Urban Policy Research Institute

NPO法人
長野都市経営研究所

〒380-0834
長野市大字鶴賀問御所町1289-1丸本ビル2F
TEL.026-235-7911 FAX.026-235-6166
www.nupri.or.jp
e-mail:nupri@nupri.or.jp

NUPRI
Nagano Urban Policy Research Institute

NPO法人 長野都市経営研究所

第83回 わいがやサロン 出演: AO VIVO

場所/ホテル国際21 芙蓉の間 12月1日(火) 18:00~20:00

クリスマス “Jazz & Bossa” ナイト

AO VIVO(アオ ビーヴォ) 仕事のかたわら、ボサノバ、ジャズを中心に演奏する5人ユニット。AO VIVOはポルトガル語で、意味は英語のLive。音楽シーンで使う「ライブ、でもあり、生きる、を兼ねている。長野市、須坂市、飯綱町在住のメンバーそれぞれがさまざまなユニット・バンドに参加、コロナ禍以前は長野市内外の飲食店、ホール、イベントに出演してきた。

- リーダー/ギター:竹内浩一 たけうちこういち (有)フリースケール 代表取締役
- アルトサクソフ:中川雅紀 なかがわまさき 日本郵便(株)郵便局 局長
- ボーカル:山極 “おーじ” 優子 やまぎわ おーじ ゆうこ 長野市三本柳児童センター児童支援員
- ベース:中田寿寛 なかたとしひろ 中田事務所
- ドラムス:長谷川裕晃 はせがわひろあき 長野市芸術館 勤務

You tubeで配信

初雪から数日経ってカレンダーをめくれば師走——(全国の新型コロナウイルス感染低下に伴って社会経済活動の制限緩和が発表された、その矢先に変種株ニュースが世界を席巻した宵、というわけで更に運営対策を徹底。)「わいがやサロン」ジャズ・ナイトが令和元年、2年に続いて開催されました。

Just Friends/ The More I See You /You'd Be So Nice To Come Home To

席に着いて、受付で渡されたプログラムを見れば、会いたいけれど会えない“Friends”や“I see You”“Come Home”、いい加減この緊張感・閉塞感から“Bye Bye”したい世界共通心情を代弁する語句が並んでいて、AO VIVOメンバーが今回の曲選びに相当腐心したのではと憶測しつつ、始まりの刻を待ちました。

座長の挨拶(事務局2人の尽力謝意に会場賛同の拍手)が終わるとサクソフ・中川さんがカウントをとってミュージック、スタート! 炸裂する音と振動を久しぶりに体感した参加者、「待ってました! これぞ生の音楽だ」とマスク内=心の内で叫んだはずです。

1曲終わってベース・中田さんがマイクを手に、「今夜はお呼びいただき有り難うございます。コロナ禍で経済活動が停滞し、いろいろあったなかで我々もAO VIVOとして揃って演奏するのは去年の、このNUPRIクリスマス・ライブ以来です。

最初の曲はジャズのスタンダード・ナンバー“Just Friends”でした。ただの友だち、でも前に友だちだったころとは違う……と歌詞が付いているんですが楽器演奏バージョンでお送りしました。次はボーカル曲を披露したいと思います」

拍手とともに山極さんが登場し、ギターがイントロ。♪ The more I want you...More lost without you...♪、ソフトな歌声が会場に浸透してきました。

AO VIVOが全員集合してメンバーの自己紹介には山極さんが心理テストを用意。「あなたは今、階段を上っています。急に上れなくなってしまいました。さて何段目から前に進めなくなってしまいましたか?」。中川さんは3段目、長谷川さんは15段目、中田さんは8段目、竹内さんは上りきったところ。「上りきったと衝撃的回答をしたメンバーがいましたが、段数は精神年齢を表しているそうです。ちなみに私は4歳(笑)、そんな演奏者の精神年齢を浮かべながら聴いていただけたらと思います」

「次はジャズファンならご存知の……」と紹介されたのは、イントロで思わず頷く、そう、“You'd Be So Nice To Come Home To”でした。ムーディーなヘレン・メリルに負けじ劣らずの“おーじ”スタイル・ボーカルとモダン・ベースにホール全体が痺れたことは間違いありません。

- * Just Friends (1931): ジョン・クレナー作曲、サム・M・ルイス作詞でヒットしたアメリカのポピュラー・ソング。チャーリー・パーカー(アルトサクソフ)はじめ多くのジャズ・ミュージシャンが取り上げている。
- * The More I See You (1945): 映画主題歌としてマーク・ゴードンとハリー・ウォーレンが作詞作曲。フランク・シナトラやナット・キング・コール等がカバー。♪君を見るたび、思いは募るばかり……♪
- * You'd Be So Nice To Come Home To (1943): コール・ポーター作詞作曲の映画音楽。ヘレン・メリルの歌唱で知られる。ヘレンは日本にほんだほどの親日家で後年たたびたび来日(拙文者も小さなライブハウスで生の歌声に接したことがあります)。

Four/Bye Bye Blackbird

ドラムスが叩かれ、再びカルテットによる演奏が軽快にスタート。聴き手も大分ほぐれてきたようで会場内体感温度も上昇。それぞれのソロが終わるごとに大きな拍手、やがてテーマ演奏に戻り、アウトロを奏でてシュッと終了。

中田さん「今のはトランペッターでモダン・ジャズの帝王マイルス・デイヴィスの“Four”、カッコイイ曲ですよ。このバンドでは初めて演奏、コロナ禍でなかなか練習できずでしたが如何でしたでしょうか。次もマイルスゆかりのスタンダード“Bye Bye Blackbird”です。多くのジャズ・ミュージシャンやボーカリストに演奏されていますが、やはりマイルスが吹き込んだバージョンが決定番ではないかと思えます」



* Four (1954): サックス奏者のエディ・クリーンヘッド・ピンソン作曲。初演の際、メンバーがマイルス、アート・ブレーキーなどカルテット=4人だったことからマイルスがその場で命名したといわれる。
* Bye Bye Blackbird (1926): モート・ディクソン作詞、レイ・ヘンダーソン作曲でヒットしたスタンダードに。♪さよならブラックバード(暗喩表現)、家族のもとに帰らなきゃ♪と女性ボーカリストがスローなブルースとして歌うことも多いが、マイルスは歌意を離れて軽快テンポで。

ウイスキーが、お好きでしょ

「メンバーの好きなお酒を訊いてみましょう?」の問いかけにビール、日本酒、ワイン、チューハイの回答。山極さん「見事に分かれましたね。では皆さんも今飲めない方はおうちで、今OKな方は飲みながら次の曲をどうぞ」♪ウイスキーが、お好きでしょ(拍手)♪…もう少し喋りましょ…♪

*ウイスキーが、お好きでしょ(1990): 洋酒会社のCMソング。田口俊作詞、杉真理作曲、SAYURI(石川さゆり)歌。現在までさまざまなバージョンでオンエア。

Misty/I Wish You Love

再びカルテット。アルトサクソフから流れ出たのは一度聞いたら耳奥に残る美しいメロディ。切なくも甘い思い出のミスト(霧)にずっと包まれていたい、そんな気にさせられた人もいたことでしょう。

山際さん「次の曲は、別れてしまうけれど相手の幸せを祈るという内容の“I Wish You Love”です。ジャズのスタンダードで英語の歌詞が付いていますが調べてみると元々はシャンソンとのこと。ゆくゆくはフランス語の歌詞で歌えたらと思えます」。失恋ソングなのに軽いノリのスローテンポがボサノバ風で、間奏も味わい深い一曲でした。

- * Misty (1954): ジャズ・ピアニストのエロル・ガーナーが作曲したバラード。空路移動中、霧中を飛行する旅客機の窓外を眺めているうち、このメロディを着想したという。エラ・フィッツジェラルドほか女性ボーカルでもヒット。
- * I Wish You Love (1942): シャルル・トレンネ作詞、レオン・ジョリアックが作曲した大ヒットしたシャンソン。チャット・ペイカー(トランペッター)のジャズ、ジョアン・ジルベルトのボサノババージョンが有名。

Corcovado/Samba De Orfeu/Ela E Carioca

AO VIVOならではのボッサ曲が始まるとライブも佳境。山極さん「コルコヴァードとはブラジルのリオデジャネイロ市街を見下ろす丘の名前。巨大なキリストの白い像が立っていて、海もすぐそこ。美しい景色、美しい愛を美しいメロディにのせて歌います」。海外旅は当分かなわない分、異国の風景に思いを馳せました。続く「オルフェのサンバ」は楽器演奏。明るいつリズム・メロディ、なのに哀愁感!再び山極さん登場。「裏で思わず踊ってました! プログラム最後の曲となりました。先ほどの曲もポルトガル語で歌わせてもらいましたが、これもポルトガル語で「彼女はカリオカ!」

- * Corcovado (1963): ボサノバ創始者・アントニオ・カルロス・ジョビンが作曲した名曲。
- * Samba De Orfeu (1959): フランス・ブラジル・イタリア合作映画「黒いオルフェ」の挿入歌。アントニオ・マリア作詞、ルイス・ボンファ作曲。♪僕は生きる、僕は踊る……サンバを踊り尽くせたら、死んでも構わない♪
- * Ela E Carioca (1970): A.C.ジョビン作曲、V. de モライス作詞、黄金コンビの作品。♪自分の彼女はカリオカ(リオ生まれ&リオ育ち)で、それはもう美人で素敵なんだ♪

アンコール:The Christmas Song

拍手が止まない会場にプレゼントされた曲は「ザ・クリスマス・ソング」。そのメロディは家路につく参加者それぞれの心身をいつまでも温めてくれたことでしょう。

* The Christmas Song (1944): 作曲家・歌手のメル・トーマがボブ・ウェルズと一緒に書いた曲。ナット・キング・コール・トリオの録音(1946)は1974年にグラミー殿堂入り。

集まって楽しむことが当たり前でなくなったこの2年を振り返り、直接顔と言葉を交わせ、愉しみを分かち合えた「わいがやサロン」に感謝。ジャズ・ナイトはNUPRIちゃんねる「わいがやサロン」で視聴いただけます。